

2026年度 地域研究科 開講日程・講義概要・講師プロフィール

開講日程

回	月日	地域研究科 B・C会議室		レセプションホール	
	時間帯	13:00～14:45	15:00～16:55	13:00～14:55	15:05～16:55
1	4月16日	開講式 講義01 村田武一郎学長 「地域P&C論」「現地実習にあたって」	PJ発表会 (進捗状況・今期活動予定)		
2	4月23日	講義02 村田武一郎学長 「地域づくり企画・計画の方法」	GW&交流会		
3	5月07日	講義03 大森淳平先生「地域課題解決に向けた住民の参画とPJコーディネート」	GW		
4	5月28日	講義04 神剛司先生 「プレゼンテーション手法・技術(基礎編)」	GW		
5	6月11日	講義05 村田武一郎学長 「うまい地域を訪ねてみよう(発展のポイント)」	GW		
6	6月25日	講義06 永富聰先生 「エネルギーの地産地消と地域づくり」	GW		
7	7月09日	講義07 野崎弘之先生 「空き家改修PJと市民参加」	GW		
8	7月30日	講義08 原田弘之先生「過疎地域における寺院と連携した観光まちづくり」	GW		
9	9月03日			公開教養講座①	公開教養講座②
10	9月10日	PJ発表会(各PJの中間報告)	シンポジウム開催方針		
11	9月17日			公開教養講座③	公開教養講座④
12	10月01日			公開教養講座⑤	公開教養講座⑥
13	10月08日	講義09 神剛司先生 「プレゼンテーション手法・技術(応用編)」	GW		
14	10月15日			公開教養講座⑦	公開教養講座⑧
15	10月22日	講義10 兼村美徳先生 「もっと中山間地域をアピールしよう」	シンポジウム実施・PR計画		
16	11月05日			公開教養講座⑨	公開教養講座⑩
17	11月19日			公開教養講座⑪	公開教養講座⑫
18	11月26日			公開教養講座(予備)	公開教養講座(予備)
19	12月03日	話題提供	GW		
20	12月10日	話題提供	GW		
21	12月17日	話題提供	GW&交流会		
22	1月07日	PJ発表会(地域づくりシンポジウム発表内容)	GW		
23	1月21日	地域づくりシンポジウム内容最終確認	シンポ発表リハーサル		
24	1月30日			地域づくりシンポジウム<土曜日> (会場確保 9:00～20:00)	
25	2月25日	講義11 村田武一郎学長「講義まとめ」	来期へ向けての振り返り		

※1)受講料は、新受講生 51,000 円(地域研究科プログラム+公開教養講座)、2 年次生以上 36,000 円(同左)です。
なお、交流会は、受講料とは別に参加費が必要です。

※2)地域研究科の基本プログラムは、「講義」「グループワーク」「現地実習」の 3 本柱です。

※3)GW: グループワーク

※4)現地実習は、PJ チームごとに、訪問先と調整して実施します(上記日程以外の日程にて行われます)。
活動成果は、2027年1月30日の地域づくりシンポジウムにて発表します。

※5)上記プログラム修了者には、一般社団法人地域づくり支援機構の地域 P&C 認定試験受験資格が与えられます。

講義概要

講義 01 地域 P&C 論 現地実習にあたって

＜地域 P&C 論＞地域づくり概論／地域づくり事例／地域 P&C(プランナー・コーディネータ)の役割

＜現地実習にあたって＞カリキュラム体系の確認／現地実習にあたっての注意事項／実習(グループワーク)提案内容の紹介＆実習グループの決定

講義 02 地域づくり企画・計画の方法

企画・計画のステージと思考プロセス／地域発展構想の作成にあたって(A.地域発展構想の基本的な構造とプロジェクト提案の位置づけ、B.地域発展構想の例－特産品を活用した地域活力づくり、C.地域発展構想とプロジェクト提案の例－生駒地域産業ビジョン、D.助成金申請書の例－奈良県地域貢献活動助成事業申請書)／数値目標の重要性

講義 03 地域課題解決に向けた住民の参画と PJ コーディネート

社会動向や経済情勢、環境の変化により、地域課題は多様化・複雑化している。本講義では、持続可能な地域社会の実現に向けて、住民参画のあり方や多様な主体との協働について、地域づくりの事例を交えて紹介しつつ、地域でプロジェクトを進めるためのコーディネートについて学ぶ。

講義 04 プレゼンテーション手法・技術(基礎編)

講義 09 プレゼンテーション手法・技術(応用編)

地域づくりは、というか人生は、プレゼンテーションの連続です。プレゼンテーションはあまり教ったことがない方が多いと思います。ぜひ基礎と応用編で、プレゼンテーションの力を養ってください。

講義 05 うまい地域を訪ねてみよう(発展のポイント)

“食”に対する関心、各地域の“食文化・食材”への関心の高まりとともに、今や、私たちには、“食を介しての交流”が不可欠となっている。地域の“食文化・食材”にこだわった“もてなし”と“交流”が地域活力の醸成を大きく左右する。

講義 06 エネルギーの地産地消と地域づくり

日本が抱えるエネルギー問題を踏まえたうえで、近年のエネルギーの地産地消と地域づくりの特徴的な動向・事例を紹介し、地域における環境・経済・社会の好循環のあり方を考える。

講義 07 空き家改修 PJ と市民参加

全国的に深刻化する「空き家問題」に、エンタメの要素を取り入れて、愉快に楽しく問題解決を試みる事例を紹介。その上で、深刻な問題であればあるほど、発想の転換が必要だと気づかされる。「やらねば」ではなく、「やりたい」に脳内チェンジする必要性を共に考えましょう。

講義 08 過疎地域における寺院と連携した観光まちづくり

全国の仏教寺院の数はコンビニよりも多く、7万以上ある。しかし、人口減少による檀家数の減少、檀家の地域からの転出に加え、煩わしさからお寺離れや墓じまいの動向もあり、檀家収入に頼った寺院経営は厳しい局面にある。一方、寺院は伝統的に、宗教的機能以外に、お祭りや集まりなど地域コミュニティの拠点であったり、緑地や遊び場の機能、地域の歴史文化を表す文化財等も保有する場合もあり、地域にとっては貴重な社会資源とも言える。これらの特徴を活かし、檀家に限らず、また地域住民だけではなく、外に向けても開かれた寺院として、地域と連携した観光まちづくりを進めることは大きな可能性があると考える。事例をもとに、そのあり方について一緒に考えましょう。

講義 10 もっと中山間地域をアピールしよう

奈良の観光は、大仏・奈良公園と言われるように、奈良市街地を中心に集客されている。結果、奈良はそれしかないように思われたり、それらを見たら奈良観光は終わってしまう感がある。奈良市以外の地域の魅力の発掘、現代の観光客のニーズから読めるもの、そこから新たな魅力を見つけ出し、その魅力を伝えることで観光リピーターをつくれていきたい。そのための地域への取り組みを考えたい。現状課題：①誰が発信するのか、②何を発信するのか、③どう発信するのか、④我々はどう関わるのか。

講義 11 講義まとめ

地域発展の構図、地域発展への人々の“共働”と地域 P&C の必要性、地域 P&C の役割、地域づくり支援活動を行うにあたって必要な視点と心得、地域づくり計画のステージと思考プロセスなど、今期講義の特に重要な箇所を振り返る。

講師プロフィール

村田 武一郎 学長 奈良フェニックス大学運営委員長・学長

◇1949年石川県生まれ。神戸大学工学部建築学科卒。一級建築士。大阪大学博士(工学)。民間研究機関を経て、2000年4月～2014年3月奈良県立大学教授、2014年4月～2018年3月帝塚山大学教授。専門は、地域計画、地域産業政策、沿岸域環境計画

◇関西文化学術研究都市、国際花と緑の博覧会、大阪湾ベイエリアの開発整備、大阪湾の環境保全・創造、阪神・淡路大震災からの復興などに関する計画、近畿各地域の振興計画、ストレス社会と心の健康づくりプロジェクトなどに従事

◇2000年からは、地域づくり人材(地域プランナー・コーディネータ)の育成、奈良県各地域における地域づくりの指導・支援、に注力している。

◇著書に、「インキュベーター企業創造の時代」(編著)、「ストレス社会と心の健康」(共編著)、「これからのお全都市づくりー阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて」(共編著)、「地域創造へのアプローチ」(共編著)、「海の環境学習ハンドブック子ども編」(共編著／国土交通省近畿地方整備局コミュニケーション型国土行政コンテスト特別賞受賞)、「新版 海域環境創造事典」(共監編著／日本沿岸域学会出版・文化賞受賞)、「地域の時代を創るー地域発展と“ひと”の役割」(編著)、「海の科学」(共監編著)、「奈良の将来ビジョンー県民からの129の提案」(共編著)、「なら工房街道」(共監修)、「地域プランナー・コーディネータ教科書」(共編著, OM環境計画研究所)、小説「地域はみんなで創るー地域はインキュベータ」(単著, 奈良フェニックス大学HPにて公開)など

◇一般社団法人地域づくり支援機構理事長

大森 淳平 先生 有限会社OM環境計画研究所代表

◇大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻修了後、都市計画コンサルタントを経て独立

◇20年以上にわたり、国・県の調査や各種計画づくりのほか、30を超える自治体で地域計画の策定、100件以上の地域プロジェクトで企画立案から事業統括・マネジメント、運営までを担ってきた。「地域の複合的課題に対し、実効性のある解決策を生み出すシンク・アクション・タンク」を理念に、住民・行政・企業など多様な主体をつなぎ、合意形成や実施体制の構築を含む一連のコーディネートを行っている。

◇2016年から日本と台湾の里山交流を推進し、近年はベトナムの貧困地域での国際協力にも関わるなど、持続可能な地域づくりに向けた国際的な実践も行っている。

◇これまでに、奈良県立大学(2011～2015)と帝塚山大学(2014～2019)で非常勤講師を務め、大阪市中央区(2013～)や西淀川区(2018～)のまちづくりセンターをはじめ、各地でアドバイザーとして活動している。

神 刚司 先生 ミュージアム・プランナー／合同会社大黒プランニング代表

◇1980年乃村工藝社入社以来、一貫して博物館の展示設計・施工を手がけてきた。2022年4月から合同会社大黒プランニング代表

◇行政と仕事を進めるにあたり、利用者不在であることに疑問を感じ、地域の考えを知るために、たまたま新聞で目にした地域づくり支援機構に入会

◇仕事の経験で、どんなに会心の提案でも、相手にその良さが伝わらなければ採用されることはなく、以来、プレゼンテーションの重要性を感じ、究めたいと努めてきた。

◇一般社団法人地域づくり支援機構理事、南山大学同窓会関西支部支部長

◇兵庫県立兵庫津ミュージアム(2022年11月開館) 展示ディレクター・学芸員

◇奈良監獄ミュージアム学芸員

永富 聰 先生 株エックス都市研究所サスティナビリティ・デザイン部門 主任研究員

◇1978年福岡県生まれ。大阪大学工学部環境工学科卒。2004年京都大学大学院エネルギー科学研究所博士前期課程修了。銀行系シンクタンクを経て、2014年より株エックス都市研究所サスティナビリティ・デザイン部門

◇環境・エネルギー政策や関連技術に関する調査・研究などに従事。同分野における調査研究多数。認定都市プランナー(環境・エネルギー分野)

◇共著書に「地域の時代を創るー地域発展と“ひと”の役割」

野崎 弘之 先生 南山城村役場産業観光課 移住交流推進員

◇岡山市出身。近畿大学農学部卒業。趣味:旅・ツーリング・将棋・落語・廃墟

◇健康産業の企業で11年間営業職として勤めながら、旅好きが高じて宿主を志す。退社後2年間「WWOOF」システムを活用し、全国のあらゆる「宿業」「オーガニック農業」の現場で修業

◇和歌山県と奈良県へ「地域おこし協力隊」として着任。平日は職員、週末は奈良で「ゲストハウス」の宿主 という2足草鞋(半公半宿主)のライフスタイルになる。和歌山と奈良を「てんぷらの廃油」で走る車で往復し、変わり者の宿主として定着

◇奈良市東部地区で田舎インバウンド活動の後、南山城村からスカウトされ、移住定住推進&空き家利活用事業の専門員となる。「関係人口」を活用した空き家対策・移住促進に取り組み、消滅可能性都市である南山城村の「30年後に推測される若年女性減少率」を10%改善させることに貢献。現在も南山城村移住交流スペース「やまんなか」の運営に携わり、移住者ネットワークの構築と、「関係人口」の深化に取り組んでいる。

原田 弘之 先生 大阪成蹊大学国際観光学部 准教授

◇京都府宮津市生まれ。大阪大学大学院工学研究科(環境工学)修了。(株)地域計画建築研究所を経て、2022年4月から大阪成蹊大学准教授

◇おもに農業と観光の視点から地域活性化のための調査、計画策定、事業創出支援を行う。近年は、自治体の農業や観光ビジョン策定のほか、地域や特産品のブランド化、卸売市場や道の駅の活性化などが主要なテーマ。奈良県内では東吉野村や明日香村等がフィールド

◇技術士(農業部門・農村環境)。一般社団法人地域づくり支援機構「地域プランナー」登録。一般社団法人都市計画コンサルタント協会「認定都市プランナー(都市・地域経営)」登録

◇著書に、『これでわかる! 着地型観光』(共著、学芸出版社)、『地域のチカラ』(共著、自治体研究社)

兼村 美徳 先生

◇1971年にファッショントラック業界に就職し、1981年に流通業界のコンサルタント会社に就職。業界紙執筆と講義を中心にマーケティングとショッピングセンター運営指導に携わる。

◇1992年に独立し店運営指導・店長・販売員教育を行う。2018年まで会社として活動を続けた。

◇2006年に35年務めた東京を離れ、奈良県に移住。2010年の平城遷都1300年祭をきっかけに「奈良の魅力発信のモノづくり・ことづくり」にチャレンジをしている。